

II. 特別講演

1 MRIを用いた神経系の機能画像について

新潟大学脳研究所
統合脳機能研究センター
脳機能解析学分野准教授
松澤 等

2 骨軟部疾患の画像診断：MRIのピットフォール

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
放射線診断治療学教授
上谷 雅孝

第57回新潟画像医学研究会

日時 平成19年11月10日(土)
午後2時～
会場 長岡グランドホテル 2階
「悠久南の間」

I. 一般演題

1 肺癌の上矢状静脈洞浸潤により脳梗塞をきたした1例

田所 央・渡辺 秀明・本山 浩
渡邊 浩之*・岡崎 悦夫**
阿部 博史
立川総合病院循環器脳血管センター
脳神経外科
同 神経内科*
立川総合病院病理科**

症例は80歳男性，7月20日～後頭部痛出現。7

月30日当院神経内科初診。頭部MRIで頭蓋骨腫瘍が疑われるため，造影し再検することとなる。8月13日より頭痛悪化，食欲不振出現した為，8月16日神経内科再診。神経学的に局所所見を認めないが，頭部MRIで上矢状静脈洞閉塞症による脳梗塞の診断にて入院。入院後閉塞の改善目的にエダラボン，ヘパリンの投与を開始。転移性頭蓋骨腫瘍を評価するため頭部ガドリニウム造影MRI，MRVの撮影，他の部位への骨転移の有無を検索するため骨シンチグラムを施行。原発巣の検索目的としては全身CT，腫瘍マーカーの測定，喀痰細胞診を施行。以上の検査により，1.肺癌の頭蓋骨転移・上矢状静脈洞浸潤，2.右後頭葉脳梗塞，3.転移性肝腫瘍(S7領域)，4.転移性左殿筋腫瘍，5.転移性右坐骨腫瘍と診断。組織型を確認した上で，治療の方針を決定するため，当科転科し頭蓋骨生検施行。病理学的検査の結果，肺扁平上皮癌の頭蓋骨転移，上矢状静脈洞への癌浸潤と診断した。

肺癌が頭蓋骨へ転移し，上矢状静脈洞への癌浸潤により脳梗塞をきたした稀な症例を経験したので若干の考察を加えて報告する。

2 低血糖と低血糖脳症の頭部MRI所見

梅田麻衣子・梅田 能生・小宅 睦郎
藤田 信也・岡本浩一郎*
長岡赤十字病院神経内科
新潟大学脳研究所統合脳機能研究
センター脳機能解析学部門*

一過性の低血糖による意識障害と低血糖脳症の4例で頭部MRI所見を検討した。重症の低血糖脳症2例では大脳皮質と基底核が障害され，低酸素性虚血性脳症の所見と類似していたが，低血糖脳症では視床が障害されない点が異なっていた。一方，低血糖の超急性期では，脳梁膨大部，内包，放線冠，中小脳脚がDWIで高信号を呈したが，その所見は一過性であった。低血糖で高信号になる病態は，細胞外液が減少し細胞性浮腫をきたすためと考えられている。白質が優位に障害される原因は，ミエリンは水分含有量が比較的多く，上記